

# 北っ子 敷島北小学校だより

令和8年3月18日 文責 学校長 増坪広夫

## 卒業にむけて 自分の殻を打ち破ろう

6年生の教室にある日めくりカレンダーも、いよいよ「卒業まであと1日」を示すことになりました。3月19日(木)には39名の子供たちが敷島北小学校の卒業生として巣立っていきます。



卒業式の練習では「呼びかけや歌」そして「歩く」「座る」「お辞儀をする」「背筋を伸ばす」などといった基本的な動作の練習などもたくさん重ねてきました。普段あたりまえのようにしている「歩く」という動作もあらためて行ってみるとなかなか難しいようです。

さすがに右腕と右足が同時に出る子はいなかったようですが、意識すればするほど不自然な動作になってしまうようでした。

当日は保護者の皆様をはじめ多くの方からの熱い視線を受けることと思いますが、できる限り堂々と胸を張った自然な振る舞いができるようにさせたいものです。

卒業式の前半は儀式的な色合いが濃い内容になっています。その中でも一番の注目はなんとといっても卒業証書授与の場面でしょうか。ステージへ歩み出て担任の呼名に返事をして、学校長から証書を受け取り、保護者に渡して再び自分の席に着くまでのわずかな時間、この晴れの舞台での主人公となるわけです。担任も今までで最高の呼名をするように努めることでしょう。子供達の最高の返事を期待しています。



後半は「別れのことば」として、卒業生と在校生で「呼びかけと歌」を行います。この呼びかけでは「ただ単に大きな声を出せばよい」というわけではありませんが「恥ずかしさ」という自分自身の殻を打ち破って「大きな声が出せる」新しい自分が発見できることを期待しています。ただ、その子自身の心の内に「自分を変えよう」といった強い気持ちがあかない限りはどうすることもできません。

## 自分を変えられるのは自分だけ

素晴らしい卒業式にするために「自分自身ができること」「集団として出来ること」を、もう一度しっかりと意識してほしいと思います。

結局は、自分を変えていけるのは自分だけでしかありません。

明日がすべての子供にとって「よき日」となりますように、卒業生や保護者の皆様には心からお祝いを申し上げますとともに、子供たちへの指導・支援に関わってくださった多くの方々に感謝申し上げます。

卒業は新たなスタートでもあります。卒業生が自分の夢に向かって、一步一步努力を重ね、幾多の壁を乗り越え、自分の夢を実現していくことを心から期待しています。



# 「富士は見ている」 敷島北小学校 校歌

校歌は、その学校を象徴するものとして制定された歌です。ほとんどすべての学校にあると言ってよいでしょう。「建学の精神」や「理想とする校風」などを表し、その学校の一員であるという自覚を高める効果が期待され、儀式的行事のときなどに歌われます。

実は令和5年度にYBSテレビ「てててTV」で「富士山の日」特集として敷島北小学校の校歌が紹介されました。ご存知の通り、本校の校歌は「富士は見ている」「がんばってやっているかい」と語りかけてくる独特な歌詞となっています。

## 敷島北小学校校歌

作詞 敷島北小学校・高木東六 作曲 高木東六

一 銀にかがやく 朝の富士山 とっても美しい

富士は見ている 富士は言ってる

「がんばってやっているかい」

ここは敷島北小学校 のびゆく力を 育てるところ

心を合わせてはげんで行こう 今が一番大事です 敷島北小



二 赤く染まった 昼の富士山 とっても勇ましい

富士は見ている 富士は言ってる

「ながよくやっているかい」

ここは敷島北小学校 羽ばたく世界へ みちびくところ

体をきたえて じょうぶになろう 今が一番大事です 敷島北小



三 黒くねむった 夜の富士山 とってもおそろしい

富士は見ている 富士は言ってる

「勉強 やっているかい」

ここは敷島北小学校 豊かな未来を 教えるところ

手をとり助けて 仲良くしよう 今が一番大事です 敷島北小



校歌制定については、過去の歴史をさかのぼると「敷島北小の創設の情念と求める人間像をもとに全児童、全父兄、全職員が言葉を出し合い、高木東六先生と共に集約して詩ができあがり、高木東六先生の作曲で明るい楽しい曲ができあがった」作詞・作曲に関わった高木東六先生は、全国50以上もの小中高校及び大学で校歌作りに携わったそうで「歌詞も従来のパターンを避け、新しい方向性を求めたもの」だそうです。



卒業式でも校歌を歌う場面があります。校歌の太字波線部もしっかりと覚えて、自分たちの母校であるこの校歌を、力強く心をこめて歌って貰えると嬉しいです。

日本には「お天道様がみている」という昔ながらの教えがあります。同様に「富士は見ている」ことを心にとめて「心に晴天を、天晴れな人生になるように」これからも自分自身を磨いていってほしいと思います。